

来週の「売り物」記事はこれ



2014年3月7日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

東電の記念誌に描かれていた

福島県双葉郡「記憶の中のまち」悲し 9日（日）



かつてない重大事故を引き起こした東京電力福島第1原子力発電所。汚染水が漏れ出すなど、いまだ収束のめどがたっていません。東電が2008年に編んだ1冊の記録があります。タイトルは「共生と共進」。福島第1原発の稼働45年を記念して、誘致や建設に関わった関係者のインタビューを収録したものです。原発推進に前のめりだった



地元議員、悩んだすえに土地を提供した農民……。いずれも福島第1原発が建つ福島県双葉郡の人たちです。ほとんどの人たちが事故を契機に故郷を追われました。いま、彼らは何を思うのか。「記念誌」に登場した双葉郡の人たちを訪ねると……。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

佐藤優さんに聞く

ウクライナと安倍外交 夕刊2面特集ワイド 13日（木）

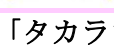


奇しくも第一次世界大戦勃発から100年目の今、ウクライナをめぐる新冷戦が勃発している。親ロシアのヤヌコビッチ政権が崩壊したのを受け、ロシアのプーチン大統領が南部クリミア半島にロシア軍を派遣。武力行使も否定しない。これに対し、アメリカやEUは経済制裁をなどをしようとしている。安倍晋三首相はソチ五輪開会式に出席するなどロシア外交に力を入れてきたが、ウクライナ情勢はどう影響するのか。ロシアに詳しい佐藤優氏＝写真＝を緊急インタビューする。

「米團治の粋な噺で行きましょう」

おんなのしんぶん面 10日（月）

おんなの
しんぶん
眼鏡



落語家の桂米團治さんの対談コーナー「米團治の粋な噺で行きましょう」。今回のゲストは、今年100周年を迎えた宝塚歌劇団の元トップスター、紫苑（しおん）ゆうさん。旧知の二人が「タカラヅカ」を語り合いました。



姜尚中さんに聞く「震災3年」

くらしナビ面 11日(火)



まもなく震災から丸3年がたとうとしています。親しい人を亡くした悲しみは今も癒えることはありません。3年という時間は私たちに何をもたらし、残された者はこの先の時間をどう生きていけばいいのでしょうか。5年前に亡くした一人息子と震災の犠牲者たちへの思いを込めた小説「心」の著者で、政治学者の姜尚中さん=写真=に聞きました。

みんなの「入園準備」

くらしナビ面 10日(月)～12日(水)

入園・入学のシーズンが近づいてきました。初めての集団生活をスムーズにスタートするためには、親と子は今、どんな準備をしておけばいいのでしょうか。育児情報誌の編集長、高祖常子さんに聞きました。3回掲載です。



— ソチ冬季パラリンピック — 運動面 16日(日)まで



7日(日本時間8日未明)に開幕した障害者スポーツの祭典、ソチ冬季パラリンピック。16日までの10日間、45カ国から参加した500人を超える選手が熱戦を繰り広げます。前回の2010年バンクーバー大会では、日本は11個(金3、銀3、銅5)を獲得しました。今大会の日本代表は、前回の金メダリスト、狩野亮選手、新田佳浩選手ら、アルペンスキー、ノルディックスキー距離、バイアスロンに計20人が出場します。五輪の熱気が冷めやらぬなか、パラリンピックの熱い戦いも毎日新聞でお楽しみください。

東日本大震災3年

「今 あなたへ」 1面から最終面

東日本大震災から3年になります。11日付け朝刊は1面から最終面まで20ページ以上にわたる各面に「今 あなたへ」と題し、さまざまな方からいただいた大事な人へのメッセージを掲載します。「震災後も生きてこられたのはおまえのおかげ」と亡き息子に語りかける父、亡き妻や支えてくれた仲間たちなどに今だから伝えたい言葉の数々です。

「被災者アンケート」 「震災関連死」 特集面等

11日朝刊は震災で被災した約220人に記者が直接、今の心境や状況、この3年で最も心に残っていることなどをたずねたアンケート結果を掲載します。「震災は忌まわしいが、さまざまな年代・地域の人と交流できたことは宝物」「子どもたちを2回転校させた。ごめんねとしか言えない」「疲れて考えられない」などと答えるひとりひとりに思いを馳せてください。

12日朝刊は被災地で深刻な問題になっている「震災関連死」の問題を掘り下げます。

社会面

11日朝刊は、風化にあらがい震災を継承しようと行動する人たちの姿を、12日朝刊は亡き人への思いを込める人たちの様子を描きます。